

2008年度第5回番組審議会議事録

1. 開催日時 2008年11月5日(水)17時~18時

2. 開催場所 弊社会議室

3. 委員の出席

3-1. 委員総数 8名

3-2. 出席委員 8名 木辻清子・萩尾利雄・正岡健二・高木邦子・山本幸男・為岡勉
平川愛恵・中嶋知之

補：放送事業者側出席者 金千秋・平野由美子

4. 議事

4-1. 番組審議

第5回審議番組「トン・リン・ティエン・ルー」

9月28日(日) 15:00~16:00 放送

パーソナリティ： トン、リン、ティエン、ルー

ミキサー： 日比野純一

毎月第4日曜日 15:00~16:00 放送。2008年7月よりスタートで今回が3回目。

パーソナリティの4人は、ベトナム難民を親とする日本育ちの若者たち。

FMわいわいとして、多文化共生社会を築いていくという目的のためにも、今後期待している番組である。

5. 議事の概要

5-1. 番組の基本コンセプトの説明後、審議を行う。

6. 審議内容

6-1. 出席者の審議

【木辻清子委員長】

- ・ 4人の声の違いが分かり難かった。
- ・ 選曲は良かった。
- ・ 声の印象も話の内容も日本人と変わりなく感じられた。彼等は日本語しか話さないのか？
- ・ 国籍のこと等、重い話題を実にさらりと話している明るさがあり好感を持った。内容もよくわかった。

【萩尾利雄委員】

- ・ 多人数が出る番組なのだから誰が話しているのかをリスナーにわかってもらわなければならない。声、個性の違いをはっきりと。
- ・ 前半は他愛のない話に終始していた。後半は深刻な内容だったがあっけらかんとしていて、番組を通して感じられる雰囲気だけでは彼等がどういう人たちなのか判断が難しい。
- ・ 安直に番組を作りすぎている。企画構成をしっかりと。誰に向かって何を語りたい番組なのかをよく考えて欲しい。公共放送なのであって校内放送ではないのだから。
- ・ 話の内容からは22~23歳の印象を受ける。年齢のわりに幼い印象を受けるのは言語教育や外国籍住民を取り巻く環境等日本の社会の問題もあると思う。
- ・ 日本で育ったことが良かったと思えるようになって欲しい。

【山本幸男委員】

- ・ 音のバランスが悪かった。
- ・ 声の印象と実年齢のギャップがあるように聞こえた。
- ・ これから回数をこなせば段々よくなっていくと思う。

【正岡健二委員】

- ・ 番組としての構成と、ゲストも含め出演者の役割をしっかりと決める必要がある。
- ・ イントロダクションの部分は適度に。雑談のように長いとチャンネルを変えられる。
- ・ メインテーマを先に言って、何を語りたいのかということにリスナーが期待するような話のテクニックを習得して欲しい。
- ・ 四人の違いをはっきりと出す。例えば、メイン、控え、受け、つつこみ等。
- ・ パーソナリティはみな仲間だからお互いのことをよくわかっているがリスナーはそうではない。きちんと説明をしないと話がわからない。
- ・ 結論をうやむやにしない。どう楽しかったのか、どう嬉しかったのか等。
- ・ それぞれの自己主張でいいから大事なことを、これだけは伝えたいことをはっきりと話してほしい。その際必ずしも意見の統一はされなくてもよい。話のバトルのように。
- ・ 事前の打ち合わせ（テーマ、ネタ仕込み、シナリオ、展開の仕方等）が大切。

【高木邦子委員】

- ・ 冒頭は雑談に終始していてそれが長く感じられた。軽くさっと流すべき話。
- ・ 国籍や帰化の話は興味を持って聞いた。次も聞いてみたい、また、聞かないとわからない内容である。
- ・ 日本人と全く変わらない感性。おおらかな話し方がよい印象であった。

【為岡務委員】

- ・ テーマがわかるまでに時間が掛かりすぎる。
- ・ 誰が喋っているのかが全くわからない。

【中嶋知之委員】

- ・ 前半部は聞き流してあまり覚えていないがその先どこまで深い話になるのか残り時間が心配になった。
- ・ 先ずテーマをわかりやすく提示しなければならない。
- ・ それぞれの人の違いがわかるように話を掘り下げて欲しい。

【平川愛恵委員】

- ・ 内輪の話かもしれないが明るく楽しい会話で、軽いノリで重い話題をしていたのが良い印象。
- ・ 普段自分が難しく考え過ぎているのかと反省することもあり、気軽さがあってよかった。
- ・ これからも試行錯誤があると思うが、技術的なことも含め慣れるに従って上手くなっていくと期待したい。

【放送事業者側出席者：金千秋】

- ・ 先ずベトナム人の社会の問題がある。難民としてやって来た彼等の両親や祖父母の世代はベトナム語のみ、子どもの時に日本に来た彼等の世代は母語も日本語も話す人と日本語のみの人に分かれる。そして日本で生まれた子どもたちは日本語しか話せないという家族間の言語のギャップの問題。
- ・ 親たちの仕事の都合などで子どもたちに母語の教育ができない環境であるのに、子どもたち

は学校等で日本語を覚えるのに必死という状態は、一面マイノリティへの政策ができていないという日本社会の問題が浮き彫りになっている。

- ・ 両方話せる世代の役割としてこれからのベトナム語番組を担ってほしいという期待がある。
- ・ 本人たちが気軽に話す内容が実はとても興味深く（どうやって神戸、長田にたどり着いたのか等）その話を引き出すために当分の間は私たちスタッフがディレクションする必要があると痛感している。
- ・ いずれは自分たちのことだけではなく、世界中に散らばってしまっているベトナム難民の社会を繋ぐことや、日本で暮らす外国籍の人たちをテーマに展開していくように技術的にも向上し、彼等自身も人として成熟してほしいと願っている。

7. 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置

- ・ 担当スタッフへの連絡

8. 審議内容の公表について

8-1. 公表内容 議事の内容

8-2. 公表方法

8-2-1. 自社放送 2008年12月13日16:50~17:00放送

8-2-2. 議事録の設置

8-2-3. ホームページに掲載

以上